

# 総計審で効果を検証

## 館山 地方創生交付金事業

館山市総合計画審議会が29日、市コミュニティセンターであった。同審議会ですとめた新総合計画は今年度スタートして

おり、今回はこれまでの実施の評価や検証がメイン。委員らは地方創生の取り組みなどについて効果検証した。



地方創生事業の効果を検証する委員ら＝館山コミセンで

審議会は、まちづくりの指針となる「総合計画」、地方創生に向けた「総合戦略」を審議する組織。今年度からこうした計画の事業効果がどうだったかを評価し、今後の改善につなげる役割も加わった。

今回は、主に館山市版総合戦略の一環として、国の地方創生関連交付金を活用して昨年度から実施している観光振興、移住定住、食のまちづくりなどの17事業について一つ一つ効果検証した。

観光振興では恋人の聖地活用、渚の駅のさかなクンギャラリーの開設といった事業に取り組み、昨年度の年間観光入込数は189万人（目標値168万人）で、達成率1

12・5%と成果を上げており、事業は有効だったと評価。

一方で、介護人材の確保を狙った介護資格取得助成制度については、目

標値30人に対して実際の利用者は1人にとどまり、「実績が少ない」と指摘。市側は「周知不足だった。次回は対策を立てたい」と応えた。

審議会は、市議や産業、行政、教育、労働、報道、学識経験者など25人で組織。今回は任期替えて、委員は新たに委嘱を受けた。大半が再任で、会長には杉井繁樹氏（館山商議所会頭）が再任された。